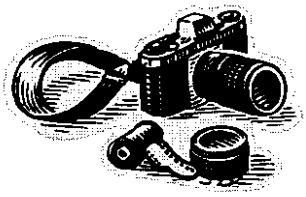
ぬかた便り

岡崎市立
額田図書館便り
No.33　冬号
（2014.12 発行）



冬至も近づき、日が落ちるのが早い十二月、皆様はどのようにお過ごしでしょうか。クリスマスや年末の大掃除、新年の準備でお忙しいことと思います。

今回のぬかた便りでは、額田ゆかりの方をご紹介します。額田で郷土の写真を四十年撮り続けている**鈴木勝男さん**は、『ふるさと額田』（A748 フN）や『ぬかた』（A318 ヌN）の編集に関わり、2012年に写真集『ふるさと額田郷』（A748 館内閲覧）を出版されました。今回、インタビューにも快く応じていただき、快活な話しぶりで写真や額田に対する熱意を語って下さいました。

鈴木　勝男さん
愛知県職員として勤めていた三十五歳の頃、兄の影響を受けて写真を撮り始める。二年後、額田シャッターくらぶに発足と同時に入会。のちに中日写真協会、日本風景写真協会などにも所属し、運営にも携わる。

左　『ふるさと額田』（A748　フN）
　鈴木さんが編集委員長を務めた額田原風景写真集
中央　『ぬかた』（A318　ヌN）
　額田町50年の歴史や資料と鈴木さんの写真も掲載
右　『ふるさと額田郷』（A748　館内閲覧）
　ふるさとの自然が変わらないで欲しい、との願いをこめた鈴木さんの写真集

Q. 写真を撮る時に、鈴木さんはどのようなことを心掛けていらっしゃいますか？

鈴木　風景を撮る場合、そこにある季節のものと自然現象を合わせるようにしているよ。例えば秋なら紅葉に霧。朝四時ごろに霧が出ていたら、懐中電灯を持っておおだの森に登り、六時ごろの日の出を待って額田郷と川霧を撮る。待つことも大事で、朝日と稜線にかかる雲の色の変化は、待ち構えていないと撮れないね。冬なら柿の実に雪など。柿の実はいつまで赤いか観察しておく。せっかく雪が降っても、柿の実が黒かったら写真にならない。額田の雪は午前中には溶けてしまうので、雪景色を撮りたい時は欲張らず、一か所に絞るようにしているよ。

人物の場合は、いい表情をしている人を写真に収めて、その後で撮影の許可をもらうことにしているよ。先に許可をもらってから撮ると、その人の表情が固くなるからね。